

1 新たに展開する重要事項

1 第5次長期計画について

2013年度は前年度に引き続き、これまで各部局で検討してきた改革プランの事業展開を支援し、具体的な成果の創出を図るとともに、農学部設置準備や国際文化学部のキャンパス移転をはじめとした重点事業をさらに推進する。

また、第5次長期計画（以下、「5長」）は、1期5年の中期計画を2期に渡って展開する「中長期計画方式」を採用している。5長の第1期中期計画（以下、「前期計画」という。）4年目となる2013年度は、これまでの前期計画における改革成果の総括を行うとともに、第2期中期計画（以下、「後期計画」という。）の策定に取りかかる。

2010	2015	2020
第5次長期計画		
第1期中期計画		第2期中期計画
課題の抽出 外部環境の変化分析		▶第1期中期計画の改善 ▶第1期中期計画で不十分だった事業の重点強化 ▶外部環境の変化に対応 ▶新たな課題への対応

○第5次長期計画における前期計画の総括と後期計画の策定に向けた検討

5長の後期計画は、前期計画での成果と課題、新たなニーズや外部環境の変化を踏まえながら策定する計画であり、2015年度から展開する予定である。2013年度は、事業4年目を迎える前期計画の諸事業について、その進捗状況や改革成果、課題などについて総括を行うとともに、後期計画の策定に向けた検討に着手する。

○「農学部の設置」及び「国際文化学部の深草キャンパス移転」に向けた準備

5長の重点課題である「農学部の設置」及び「国際文化学部の深草キャンパス移転」については、2015年4月の開設及び新規展開に向けて準備を進めている。2013年度は翌年度に設置認可申請等の行政手続きを行うための準備期間にあたることから、昨今の設置認可手続きの厳格化を踏まえ、開設及び新規展開に向け遺漏の無いよう準備を進める。

○国際化方策に向けた具体的な事業の検討及び推進

5長重点課題の一つとして掲げている「多文化共生キャンパスの実現」に向け、2013年度は、5長期における大学の新たな「国際化ビジョン」を策定し、一層の国際化に向けた具体的な検討を行い、順次事業を展開する。

2 「農学部の設置」及び「国際文化学部の深草キャンパス移転」

5長の重点課題の一つである「農学部の設置（2015年4月開設予定）」について、2013年度は翌年度に予定される設置認可申請等の行政手続きに向けた準備を概ね完了させる。具体的には、農学部設置委員会及び同委員会の下に課題毎に設置したワーキンググループにおいて検討を積み重ね、農学部の教学理念や人材育成像などの学部コンセプトに基づいたカリキュラム、教学体制を構築し、それらに応じた教学内容の特色化や施設設備等の整備を図るとともに、各種申請書類の作成を進める。

また、農学部同様、5長の重点課題の一つである「国際文化学部の深草キャンパス移転（2015年4月移転予定）」については、同学部の移転に伴う各種準備を進めるとともに、本移転を契機として、龍谷大学における「グローバル人材の育成」や「多文化共生キャンパスの実現」に向けた具体的な事業内容を検討する。

○農学部の充実した教学内容等の構築

農学部のコンセプト及び設置する各学科の特色に応じたカリキュラムの編成、教員の採用、地域に根ざした取り組みや産官学連携事業の計画策定、グローバル化への対応方策の検討等に取り組む。また、文部科学省や厚生労働省、農林水産省等の中央官庁をはじめとして、地元自治体や地域社会との関係を構築・強化し、教学内容等の充実を図るとともに、本学農学部としての特色化や独自性の構築をめざしていく。

○農学部の施設・実験設備等の整備

農学部における教育・研究の基盤を支える各種施設・実験設備等について、設置する各学科の特色に応じた仕様を検討し確定する。農学部の専用施設（瀬田キャンパス新棟）については、2013年度前半期までに設計を完了し、同年後半期からの着工をめざす。また、農学部におけるカリキュラムの特色の一つである全学科を横断した「農業実習」等を行うための実習用農地の確保・整備も進める。

○深草キャンパス既存学部等との連携方策の検討

国際文化学部移転後の教学展開として、深草キャンパスの既存学部等との有機的な連携方策を検討する。国際文化学部のキャンパス移転は、単なる学部移転に留まらず、深草キャンパスで展開する既存の教学内容との相乗効果を発揮し得るような教学展開を図ることが求められている。2013年度は、これらの連携方策やグローバル人材の育成をめざした取り組み等、具体的な事業内容について検討を行う。

○「多文化共生キャンパスの実現」に向けた取り組みの検討
深草キャンパスは、国際文化学部が移転する2015年度

以降、留学生が500名以上集う国際性豊かなキャンパスを形成することとなる。このようなキャンパス環境を活用しつつ、本学がめざす「多文化共生キャンパスの実現」に向けた取り組みについて検討を行う。

3 大学広報・ブランディング活動について

2013年度は、ブランドコンセプトに基づき、5長をはじめとした諸事業をステークホルダーに正しく伝え評価される環境や、長期的にブランドを維持できる仕組みの構築を図る。新ブランド構築に向け、原動力となる学内構成員（教職員・在学生）・卒業生への浸透活動を強化するとともに、既存メディアに加え、ソーシャルメディア等を活用した情報発信等をおこない、ブランド確立とイメージ向上を図る。

ブランド浸透の推進にあたっては、学生および部局横断的な教職員をメンバーとするブランド浸透プロジェクトチームを設置し、多様な意見を取り入れつつ、施策の検討を進める。

4 学生支援の充実について

学生の就職支援という観点からは、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多彩な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行っている。

また、課外活動および大学全体の活性化を目的とした方策として、課外活動学生への奨学金制度の充実を図り、2012年度から新たに選定した重点・強化サークルを中心に全国大会や国際大会で活躍できる選手・チームを育成する。

○学生と企業とのマッチング強化

学生と企業との出会いの場を積極的に創出する。学内企業説明会への企業誘致を強化し、企業選びの指標や情報を広く学生に提供・周知する機会を増やしていくとともに、魅力ある中堅・中小企業などの新たな企業開拓を図り、求人を獲得していく。

○U・Iターン支援の強化

学生・保護者と自治体の双方のニーズを踏まえ、U・Iターン支援の強化に積極的に取り組む。2012年度までに、鳥取県、徳島県、広島県、香川県、愛媛県、島根県、長野県の7県との間にUターンに係る就職支援協定の締結を進めてきた。引き続き、地方における若手人材のU・Iターンを促進し、地域経済の活性化への貢献を目指す。

○課外活動学生や課外活動サークルへの支援の充実

課外活動学生への優秀スポーツ奨学金や課外活動等奨学金制度を見直し、学生が正課と課外活動に集中できるよう、優秀な学生に対して奨学金を給付する。また、2012年度には、2014年度までの重点・強化サークルを指定した。2012年度には、重点サークルである硬式野球部が全日本大学野球選手権大会においてベスト4の成績を残し、強化サークルである女子バレーボール部は関西学生リーグ6連覇を達成するなど、それぞれのサークルが好成績を残した。今後においても、経験豊富な指導者の招聘や学生の入部促進、強化費の支援、ライフスキル指導等を行い、課外活動サークルへの支援を通じて大学全体の活性化につなげてい

く。

5 教育・研究環境の充実について

○留学生寮の整備—国際交流会館「りゅうこく国際ハウス」の運営

2013年4月に、国際交流機能を有する留学生寮として国際交流会館「りゅうこく国際ハウス」の使用を開始する。この「りゅうこく国際ハウス」は、既存の留学生寮である「ともいき国際ハウス」とともに本学の国際交流を推進する拠点として位置づけ、留学生寮機能の他に、留学生との共同生活や交流活動を行うことを目的に、留学生以外の入居枠（一般枠）を設け、留学生と日本人学生等が積極的に交流できる環境を構築していく。

○深草キャンパス新1号館（仮称）の建設

本学の第5次長期計画「RYUKOKU Vision2020」に示されている学生の主体的な活動の支援や、優れた研究基盤の形成、多文化共生キャンパスの実現等に資するとともに、2015年4月に国際文化学部が深草キャンパスへ移転することに伴い必要となる機能を整備した施設として2015年1月の竣工をめざし、1号館跡地（2013年2月解体）に深草キャンパス新1号館を建設する。

<新1号館の概要>

- ・構造：鉄筋コンクリート造（地下2階）、鉄筋鉄骨コンクリート造（地下1階）、鉄骨造（1階から5階）
- ・階数：地上5階、地下2階
- ・総床面積：約28,000㎡（8,485坪）



新1号館は、深草キャンパス東門からの動線を意識し、アクセスが容易な1階に事務室・コモンスペース等の人が集うスペース、地階には、静寂な環境が求められる講義室、2階・3階には、主に小規模教室、4階・5階の落ち着いた空間に研究スペースを配置する。また、深草キャンパスの中心に位置する南側（地下2階～地上3階）には、学術・研究の中心となる図書館を配置する。加えて、可能な限り交流ラウンジ等、学生が集い交流できるスペースを設け、学生がキャンパス内で長く過ごすことのできる空間を整備することで、キャンパスアメニティの向上を図る。

6 5次長期計画について地域社会と連携した取り組みについて

○深草町家キャンパスの開設

本学深草キャンパスの位置する深草地区において、「深草町家キャンパス」を開設する（2013年4月開設予定）。この施設は、地域住民が親しみをもちやすい「町家」の利活用を通じて、地域社会と連携を図りながら、本学の教育・研究上の特色を有効に活かして展開する。また、本学の教

育・研究活動による成果や学内資源を地域に還元し、地域に開かれた大学として、地域と共に発展することをめざしている。深草町家キャンパスでは、①学生・教員等と地域住民との協働活動・交流、②学部や大学院のゼミ活動等の成果報告、③サークル活動における練習・稽古場やそれらの発表会・展覧会等の諸活動による利用をめざす。また、深草町家キャンパスの日常の管理・運営については、本学の学生、大学院生、教員・職員及び地域住民を構成員とするNPO法人に委託することとする。

○ 社会的責任投資（SRI）により運営される「地域貢献型メガソーラー発電事業」の展開

近年の日本社会は、東日本大震災以降、復興支援が焦眉の課題となり、また、これまでの原子力発電依存への反省と再生可能エネルギーへの可能性が模索されている状況にある。そのような中、本学政策学部の教員が中心となった研究開発プロジェクトでの研究成果を発展・具現化させた

「地域貢献型メガソーラー発電事業」を、事業会社である株式会社PLUS SOCIALをはじめ、和歌山県印南町、株式会社京セラソーラーコーポレーション、トランスバリュー信託株式会社と共同で実施する。研究成果を社会に「実装化」していくことは大学の重要な責務であるとともに、本事業は社会貢献活動の振興を目的とした取り組みである。このことは本学が資金運用を行うにあたって定めた方針にも適しており、本学が同事業に対して社会的責任投資（SRI：Socially Responsible Investment）を行うこととする。2013年7月には、地域貢献型メガソーラー発電所となる「龍谷ソーラーパーク」が印南町や本学深草キャンパスで稼働し、事業が本格的に開始される予定である。また、本学では関係機関と協定を締結し、高校生や大学生を対象とした講演会や小・中学生を対象とした環境学習事業を関係機関と共同して実施する予定である。